

SUP-GS/ROM V4

**online Support Package - GlobalServer/
Recovery Operation Manager**

オンライン自動化ツール / リカバリ操作管理

株式会社 富士通アドバンストソリューションズ

目次

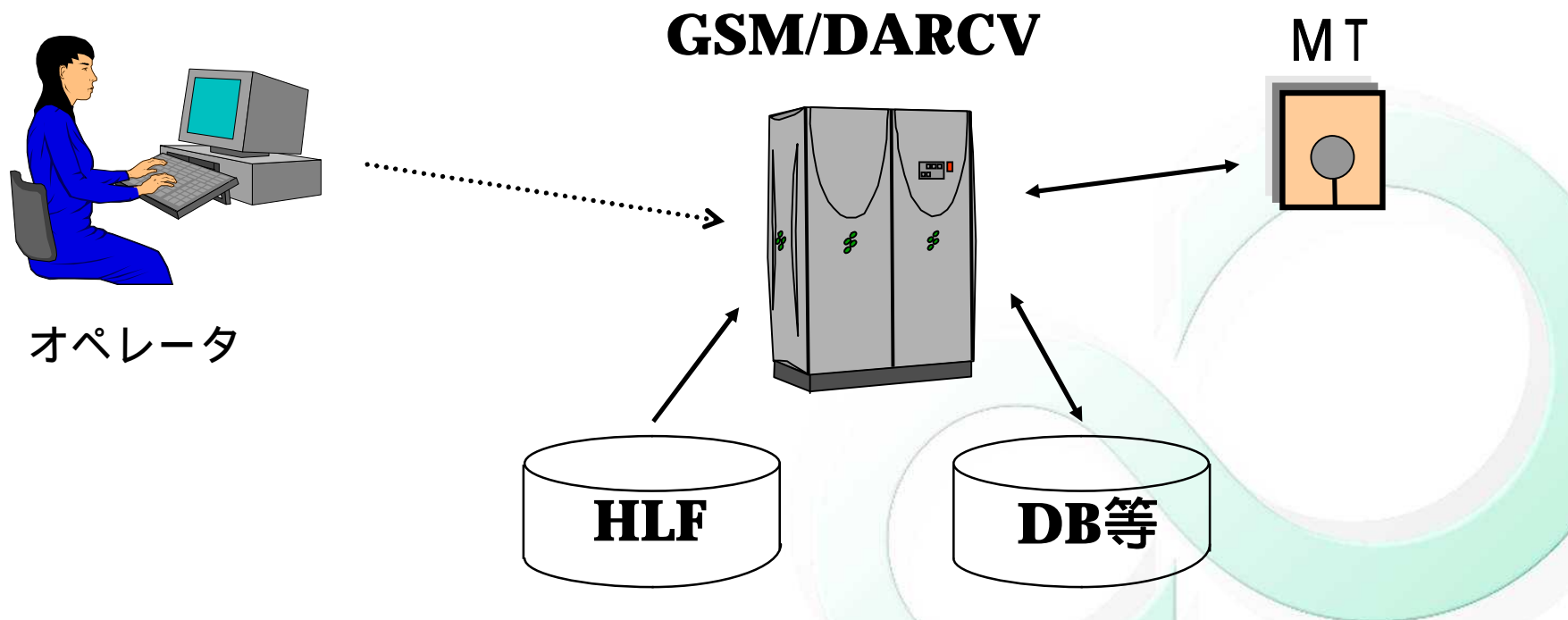
1. 背景
2. 問題点
3. 目的
4. 特長



1. 背景

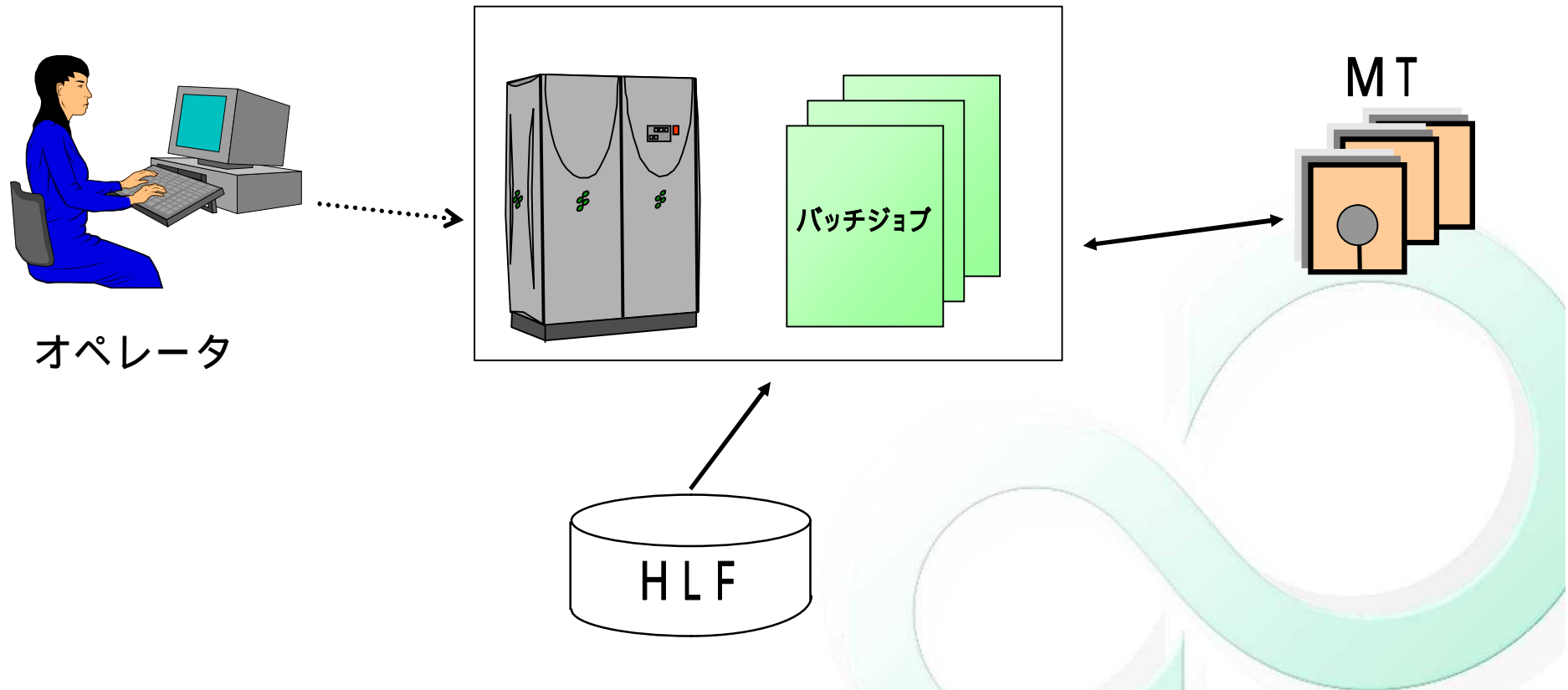
1.1 GSM/DARCVによるデータ保全

- ボリュームバックアップ
- ログデータバックアップ
- バックアップ媒体自動管理とリカバリ操作の簡易化



1.2 GSM/DARCV管理対象外データ(ユーザログ等)の運用

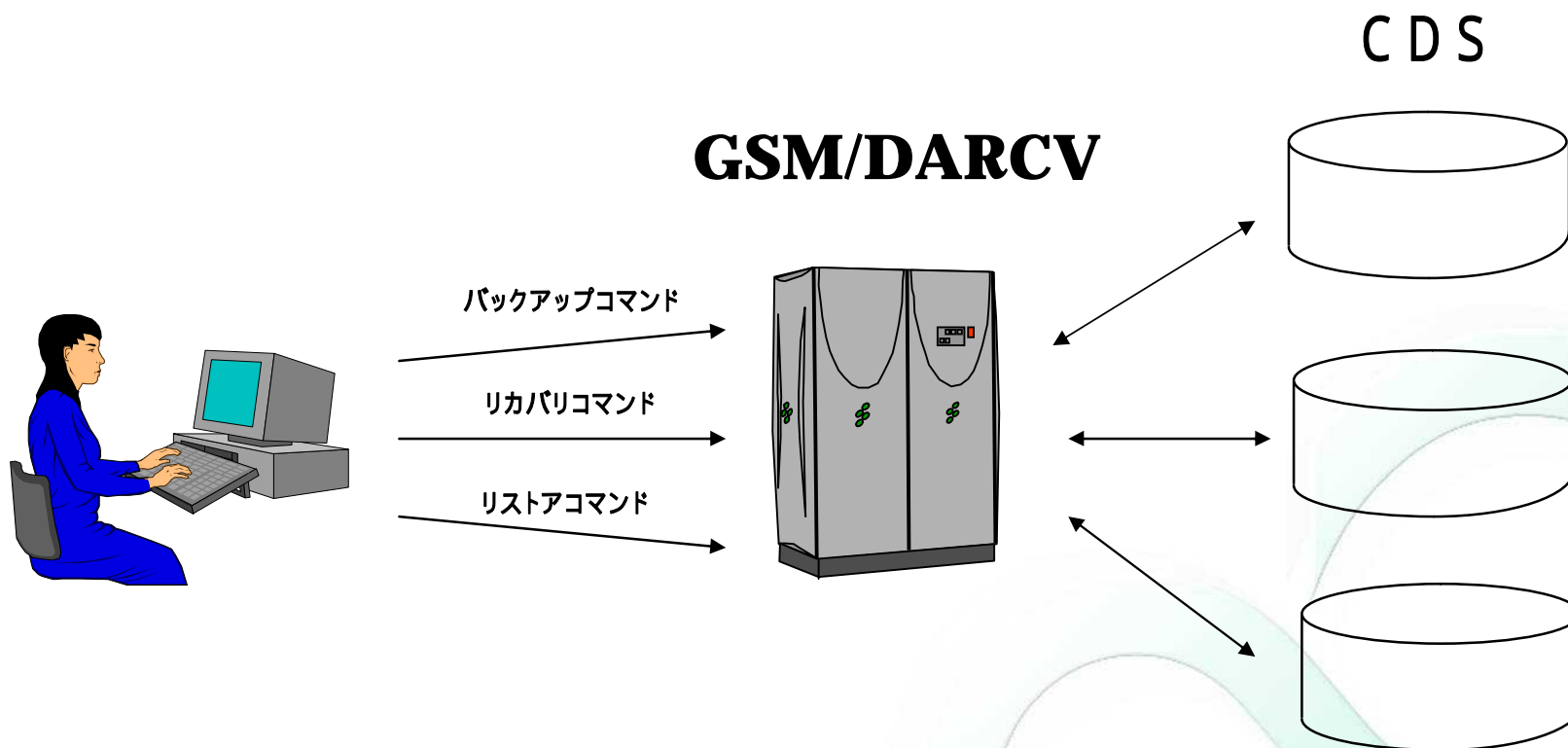
- I COPY / 分類用データセットの世代管理
- バッチジョブ逐次化制御



2. 問題点

2.1 GSM/DARCVを使用したDASD保守運用に必要な操作

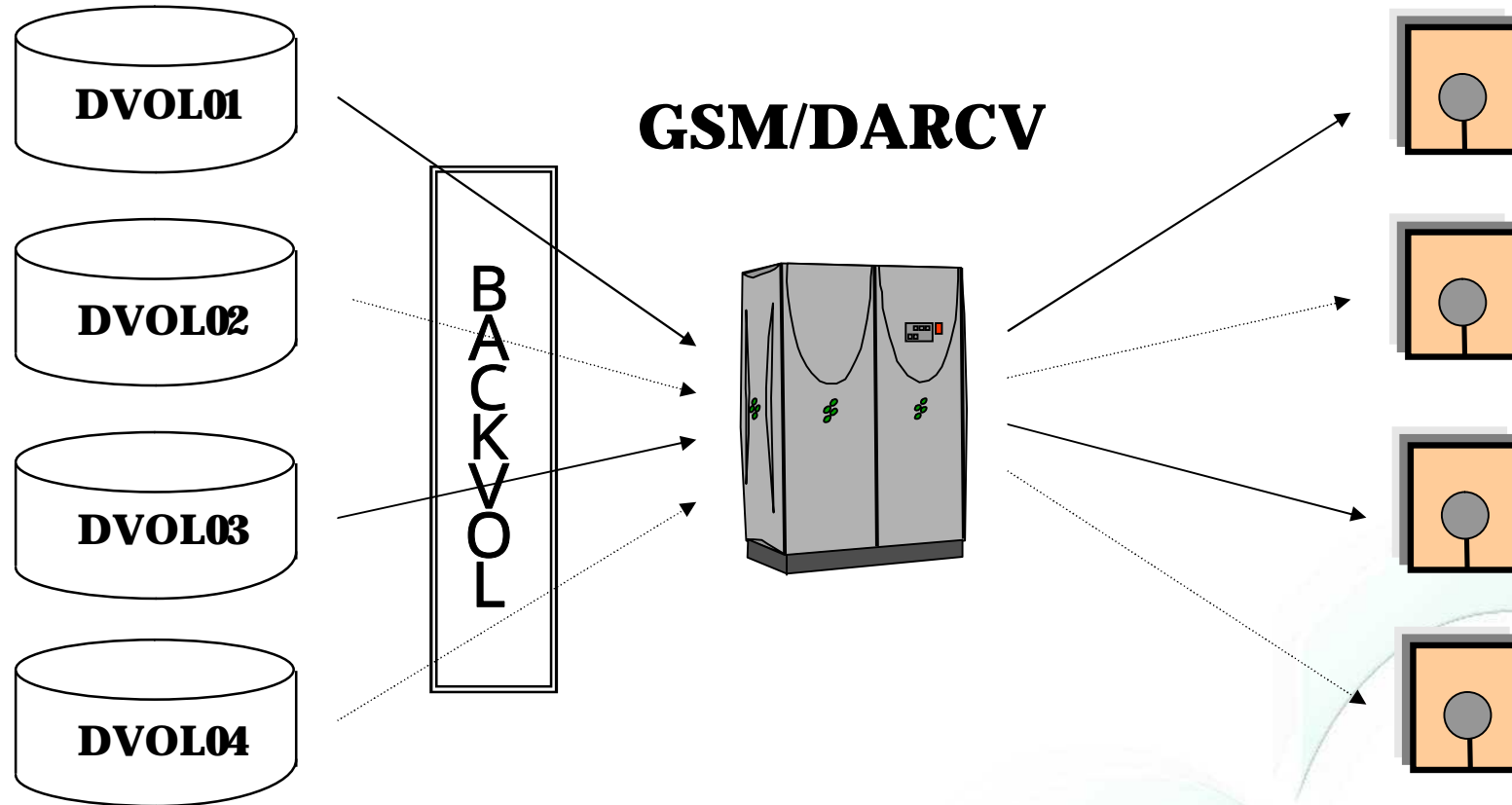
(1) GSM/DARCVに対するコマンド操作



適切なCDSを選択して,各コマンドをコンソールより入力

(2) 複数の操作を手順として実施する場合

複数ボリュームのバックアップを行う場合



手順1

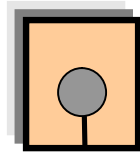
1. **BACKVOL,ID(xxxxxxxx),VOLUME(DVOL01)**
2. **BACKVOL,ID(xxxxxxxx),VOLUME(DVOL02)**

手順2

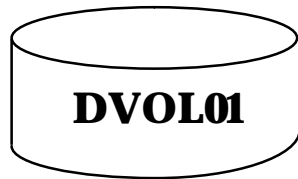
1. **BACKVOL,ID(xxxxxxxx),VOLUME(DVOL03)**
2. **BACKVOL,ID(xxxxxxxx),VOLUME(DVOL04)**

トータルロード後にログのみリカバリを行う場合

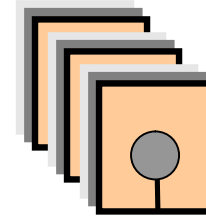
ボリュームバックアップ媒体



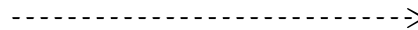
トータルロード



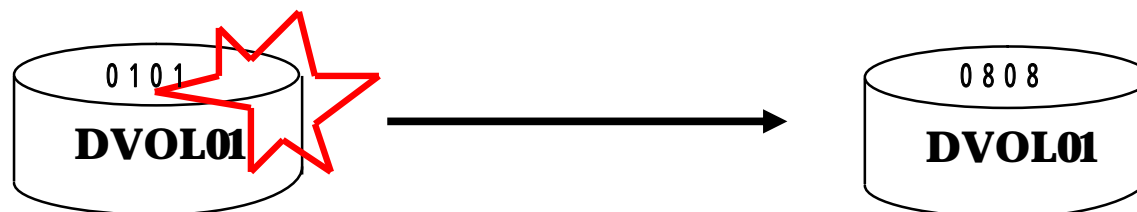
ログデータバックアップ媒体



ログのみリカバリ

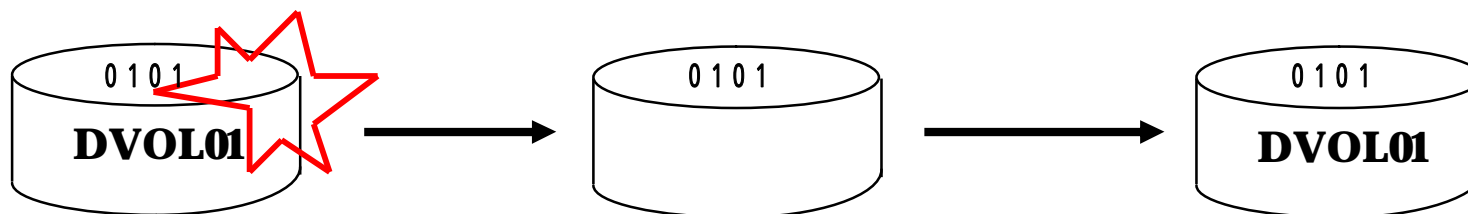


(3) リカバリ先装置の準備



1.入出力障害が発生

2.代替装置に同一ボリュームを
マウント



1.入出力障害が発生

2.障害装置を交換
(CE作業)

3.交換後の装置に同一ボリュ
ームをマウント

<結論> GSM / DARCVを使用したDASD保守運用の各種操作を自動化したい

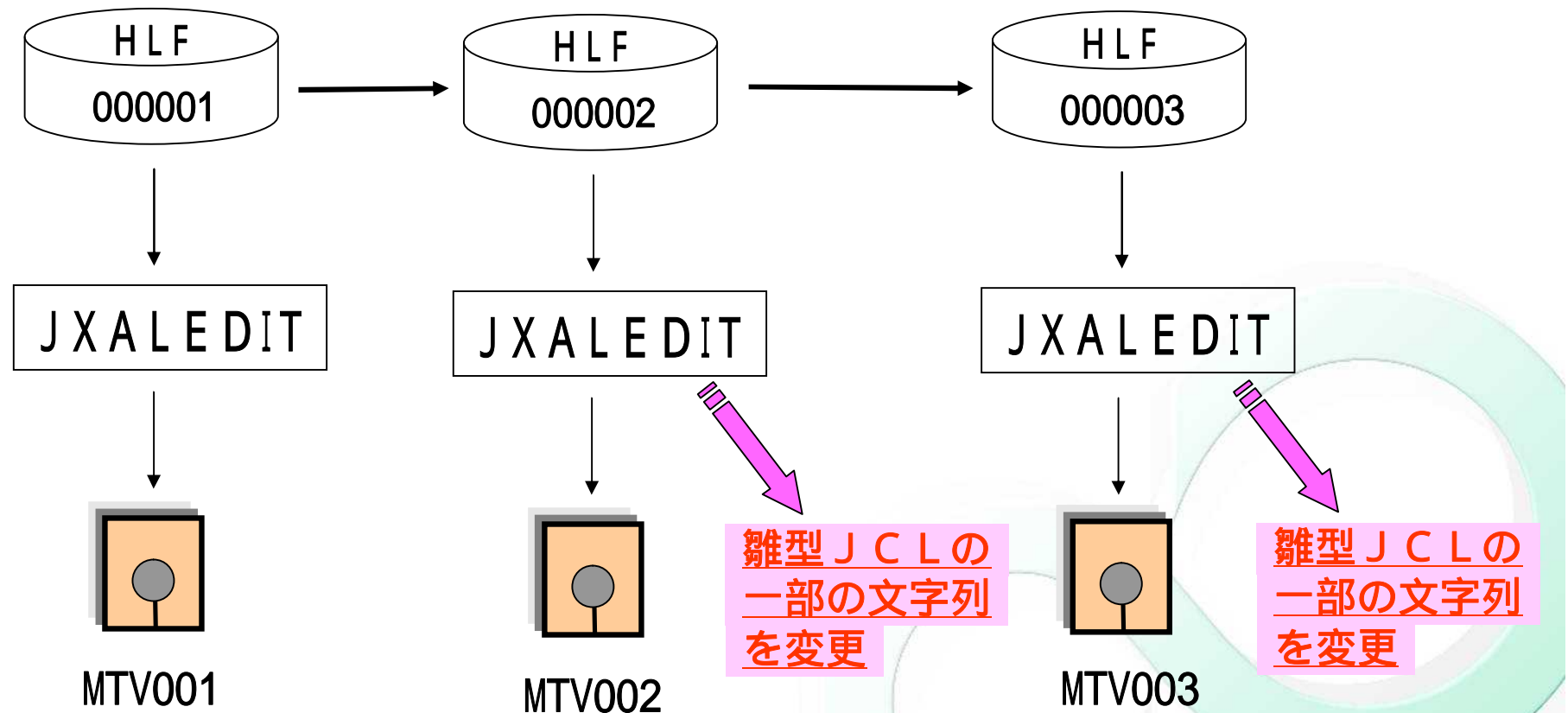


SUP - GS / ROMによる自動化が必要
(DASD保守運用の自動化機能)

2.2 GSM/DARCV管理対象外のデータ運用で必要な操作

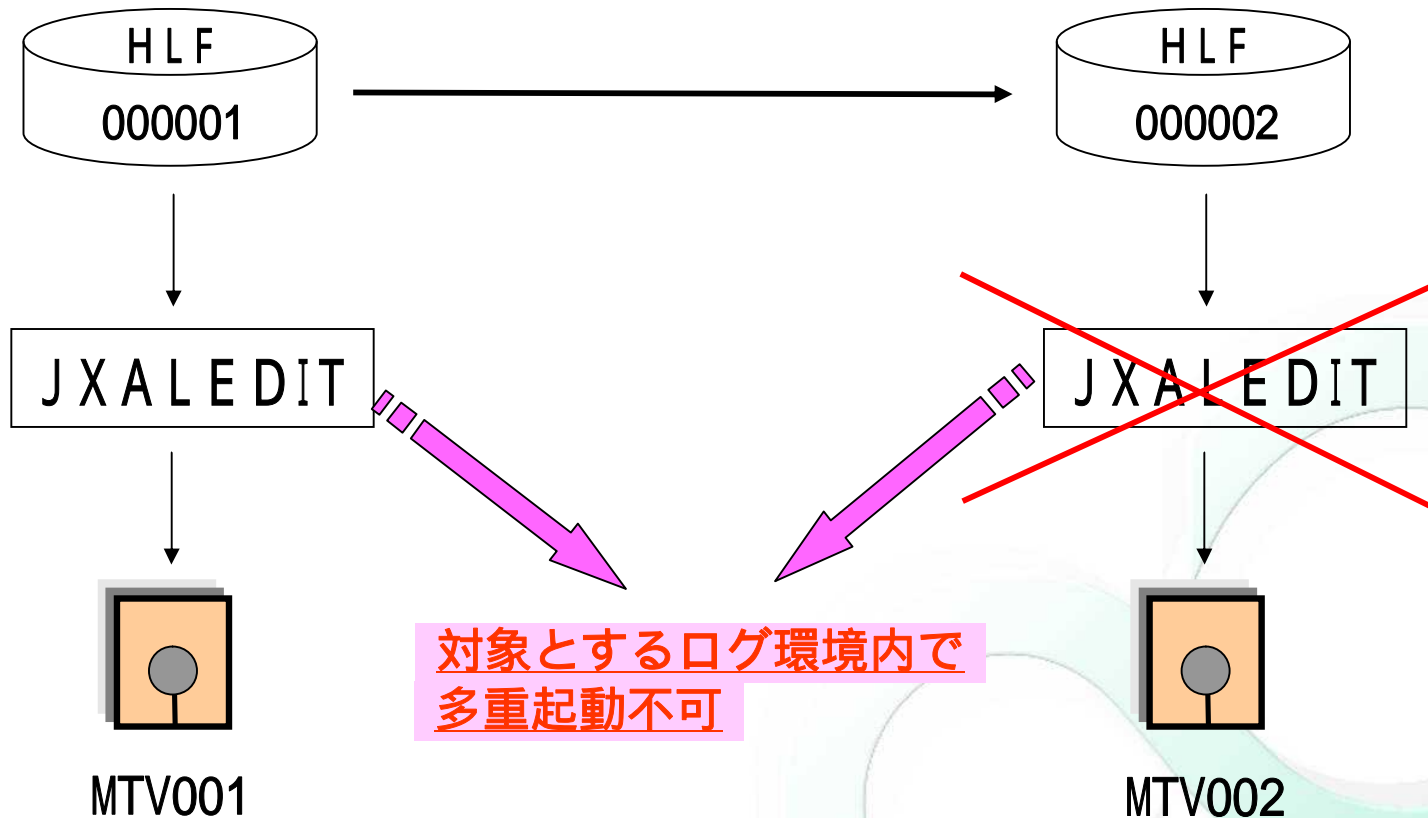
(1) バックアップ/分類用データセットの世代管理

HLF 交替等を契機としてICOPYやログ分類のジョブを起動する毎に、該当する雛型JCLの一部の文字列を変更する必要がある



(2) バッチジョブ逐次化制御

ICOPY取得やログデータ分類時等において、それぞれ対象とするログ環境内でJXALEEDITユーティリティは多重起動不可



<結論> GSM / DARC V管理対象外のデータ運用で利用するバッチジョブにおいて以下の機能を実現したい

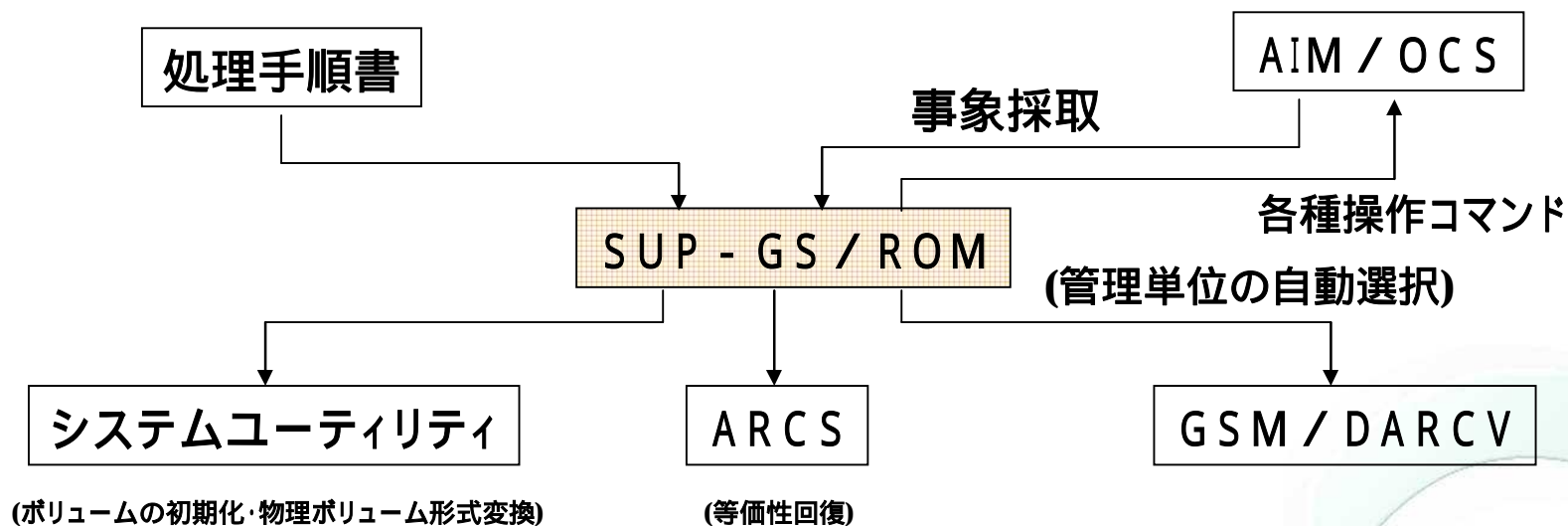
- バッチジョブ雛型 J C L の一部文字列の動的変更（文字列置換機能）
- バッチジョブの逐次化制御



SUP - GS / ROMにより実現可能
(バッチジョブの運用支援機能)

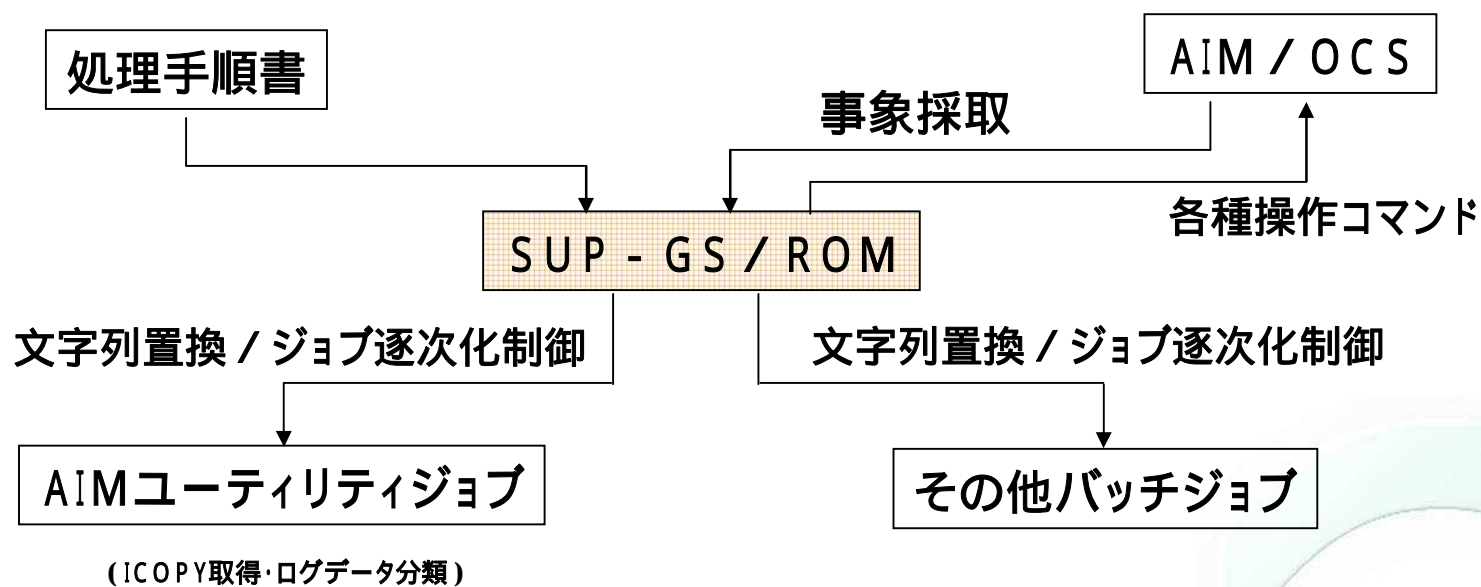
3. 目的

3.1 DASD保守運用の自動化



- AIM / OCSとの連携
- システムユーティリティ / ARCSジョブ起動
- GSM / DARCVとの連携

3.2 バッチジョブの運用支援



- AIM / OCSとの連携
- AIMユーティリティジョブ / その他バッチジョブ起動

➡ **文字列置換 / ジョブ逐次化制御**

4. 特 長

SUP - GS / ROMの特長

処理手順書による操作の自動化

AIM / OCS連携

リカバリ範囲の拡大とリカバリ先装置の選択

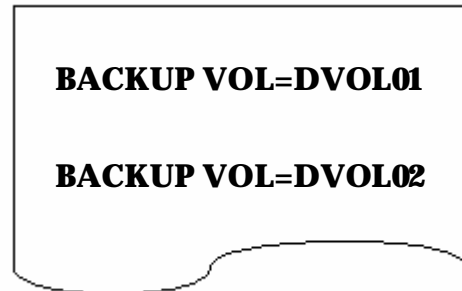
環境創成支援

バッチジョブ運用支援

(1) 処理手順書による操作の自動化

処理手順書1

(ボリュームバックアップ)



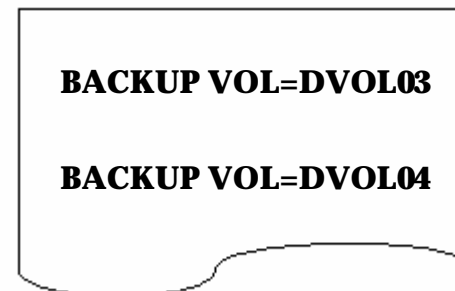
1. DVOL01のバックアップ



2. DVOL02のバックアップ

処理手順書2

(ボリュームバックアップ)



1. DVOL03のバックアップ

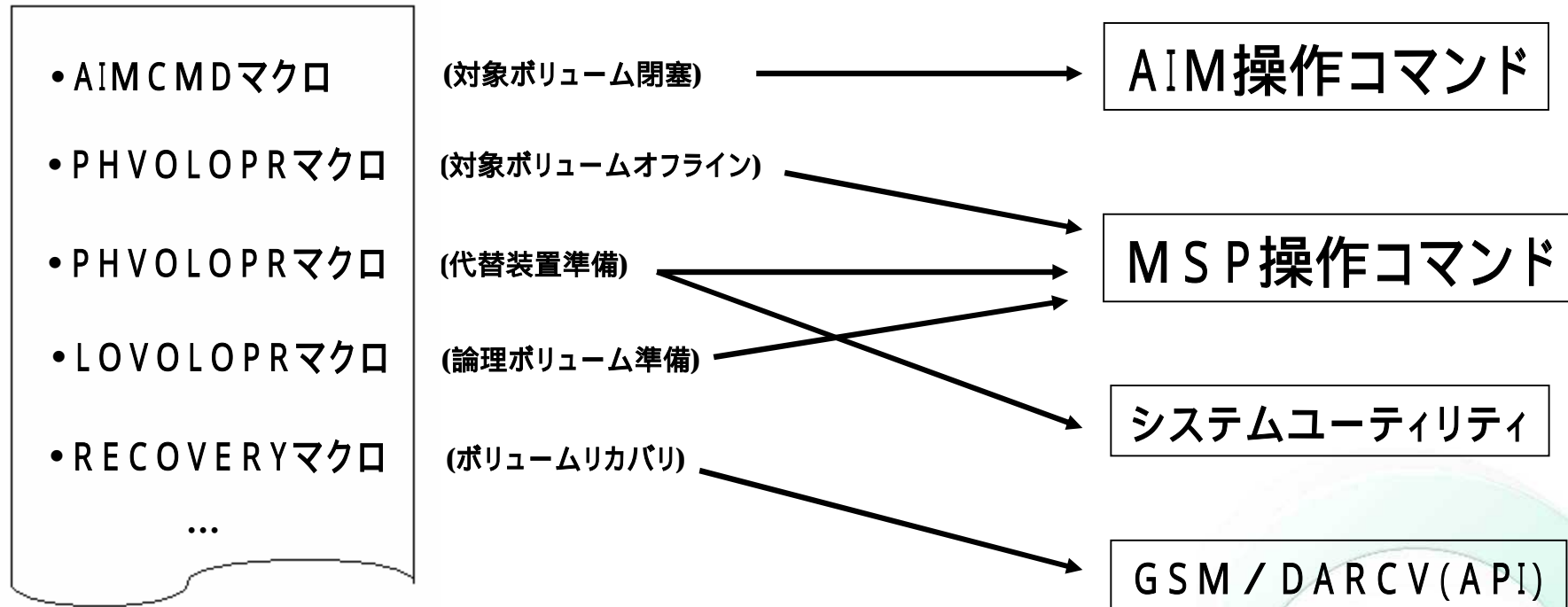


2. DVOL04のバックアップ



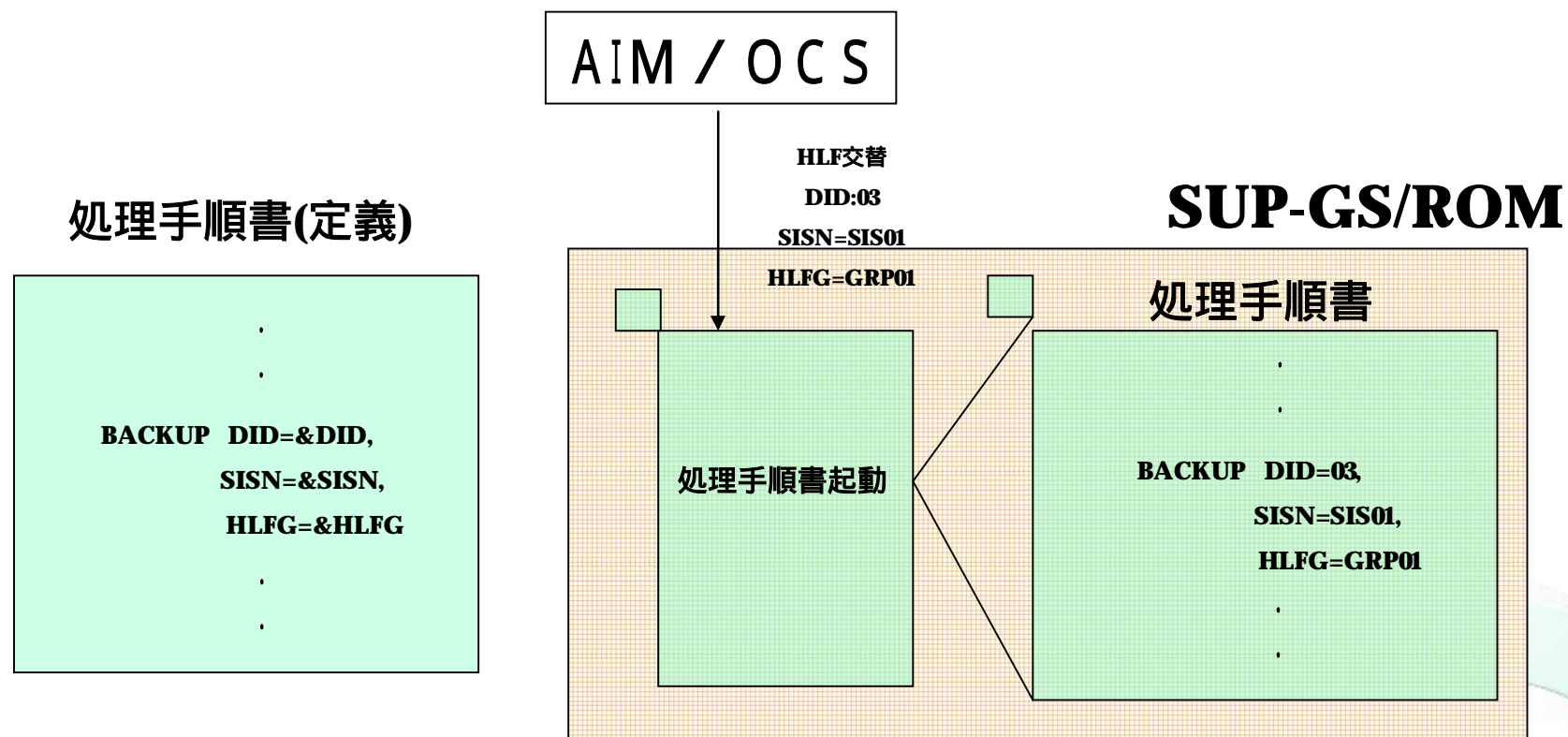
n 多重によるボリュームバックアップを実現

処理手順書(リカバリ)



リカバリに必要な各種操作を処理手順書上で順次実施

(2) AIM / OCS連携



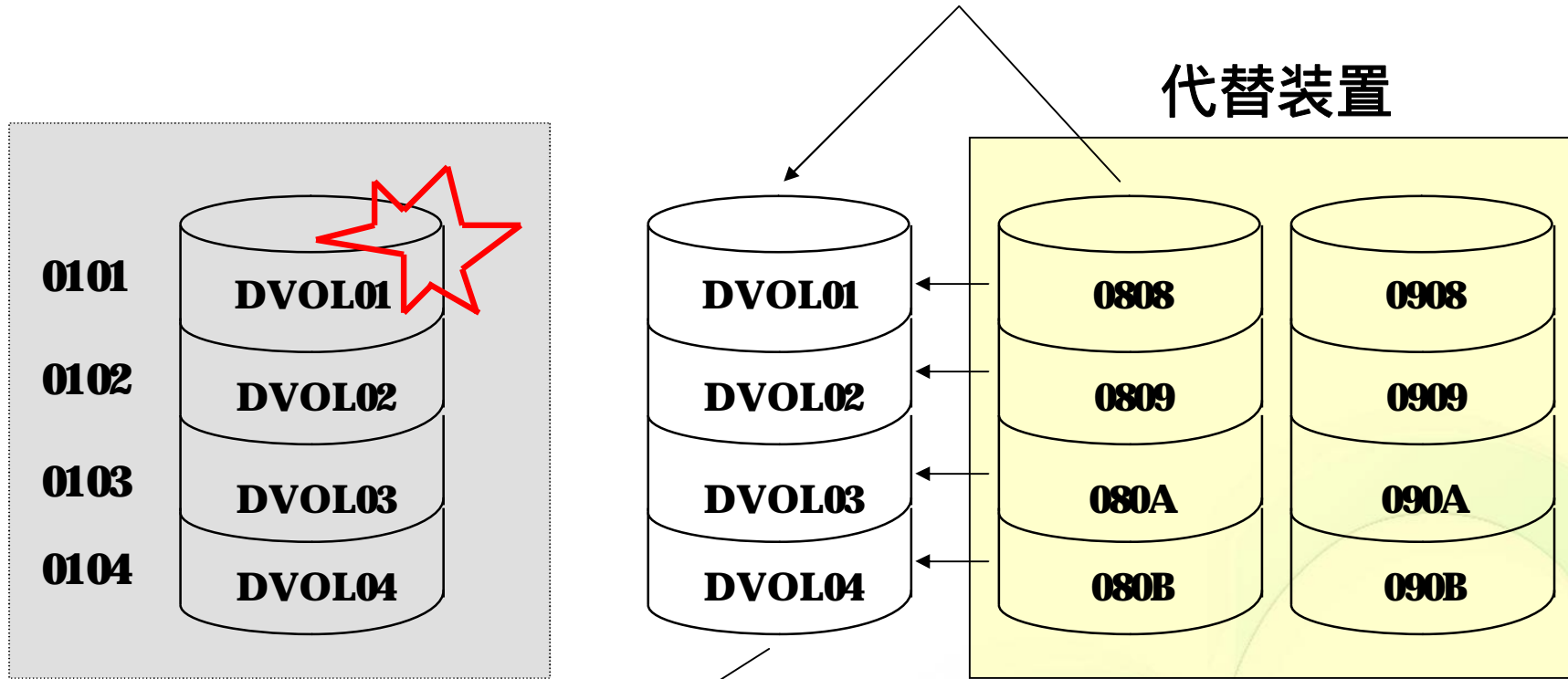
● 特定のAIMシステム事象と起動する処理手順書を指定

➡ ユーザ事象, コマンド依頼事象による処理手順書の起動も可

● 処理手順書にて付加情報のキ一名を記述

(3) リカバリ範囲の拡大とリカバリ先装置の選択

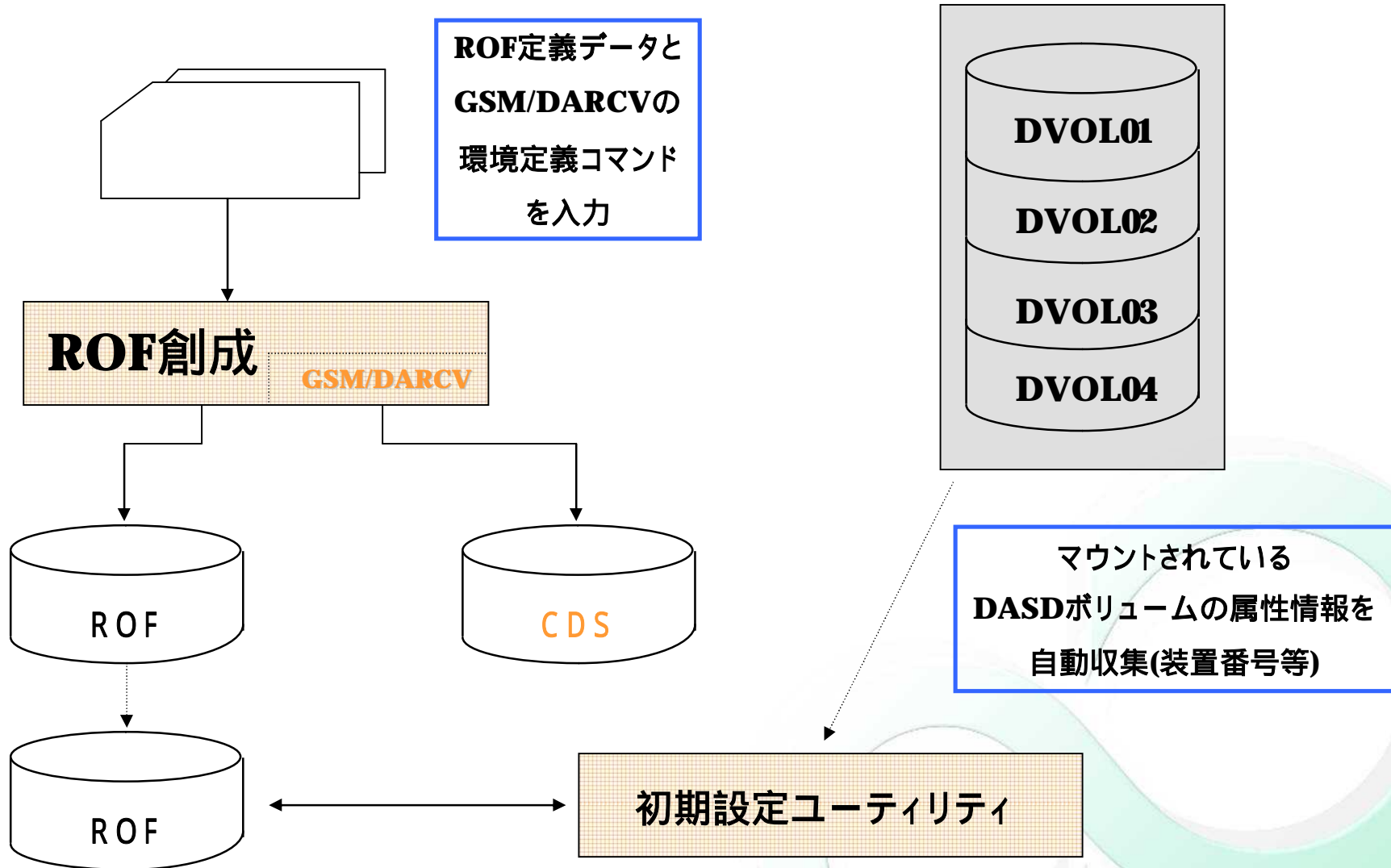
2. 適切な代替装置を選択し、リカバリ範囲と同一ボリュームをマウント



リカバリ先装置として正規装置を選択すると、元の装置をリカバリ先として選択

1. アレイディスク装置のボリュームグループ全体をリカバリ範囲に

(4) 環境創成支援



(5) バッチジョブ運用支援

雛型 JCL (文字列置換前)

```
//JOB00001 JOB CLASS=A,MSGCLASS=X
//BATCH01 EXEC PGM=PROGM001
//INDD1 DD DSN=DSN00001.INDD.A%CNT1,
UNIT=SYSDA,VOL=SER=VOL001
//OUTDD1 DD DSN=DSN00001.OUTDD.A%CNT2,
UNIT=CMT,VOL=SER=%MTVOL
//
```

置換文字列実体情報

世代番号	%CNT1	%CNT2	%MTVOL
0001	0001	0002	MTV001
0002	0002	0003	MTV002
0003	0003	0004	MTV003
0004	0004	0005	MTV004
0005	0005	0006	MTV005
0006	0006	0007	MTV006
0007	0007	0008	MTV007

置換文字列実体情報の組を使用して
雛型 JCL の内容を置換

実行 JCL (文字列置換後)

```
//JOB00001 JOB CLASS=A,MSGCLASS=X
//BATCH01 EXEC PGM=PROGM001
//INDD1 DD DSN=DSN00001.INDD.A0005,
UNIT=SYSDA,VOL=SER=VOL001
//OUTDD1 DD DSN=DSN00001.OUTDD.A0006,
UNIT=CMT,VOL=SER=MTV005
//
```



雛型 JCL の一部文字列を世代番号単位に動的に変更

処理手順書 1

• REGJOBマクロ

バッチジョブ登録
(ジョブ識別子=A)
バッチジョブ終了
待ち合わせ
...

処理手順書 2

• REGJOBマクロ

バッチジョブ登録
(ジョブ識別子=A)
バッチジョブ終了
待ち合わせ
...

「ジョブ 0001」終了後に
「ジョブ 0002」が起動される

バッチジョブ登録ファイル

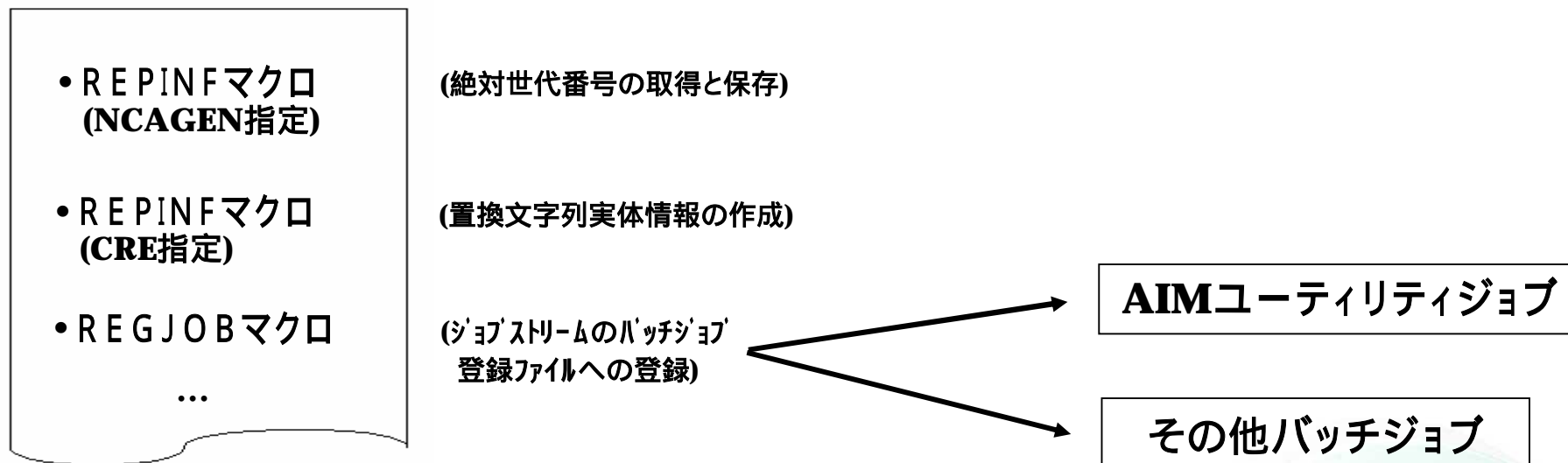
ジョブ 0001 識別子=A	W → X → E
ジョブ 0002 識別子=A	W → V → X → E

W : ジョブ実行待ち
X : ジョブ実行中
E : ジョブ終了

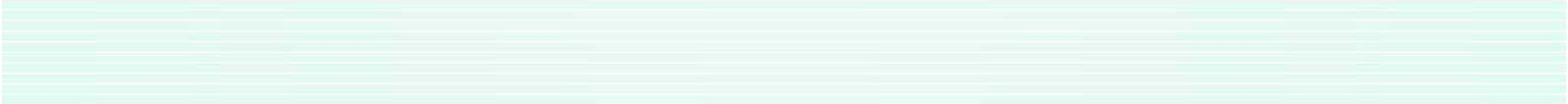


同一の識別子を持つバッチジョブに対し逐次化制御を実施

処理手順書(バッチジョブ運用支援)



バッチジョブ運用支援に必要な各種操作を処理手順書上で
順次実施



FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

